

International Cultural Exchanges (ICE)

国際交流

課外活動

地域交流

代表者：人文学部人文コミュニケーション学科2年 高 穎瑜

連携先

泉町二丁目商店街振興組合、里美ふるさと振興公社、さとみ・あいチーム、こみフェスチーム、茨城キリスト教大学、常磐大学、茨城キリスト教学園高等学校、茨城県立水戸第二高等学校、茨城県立水戸桜ノ牧高等学校、茨城県立水戸桜ノ牧高等学校常北校

顧問教員

杉本 妙子（人文学部教授）

参加者

高 穎瑜（人文学部人文コミュニケーション学科2年）

清野 絢（人文学部人文コミュニケーション学科3年）

鄒 明傑（人文学部人文社会学科4年）

櫻井 優美（人文学部人文コミュニケーション学科3年）

藤堂みさ都（人文学部人文コミュニケーション学科2年）

プロジェクトの概要

大学生、高校生、留学生、地域住民の4者の異文化交流および異文化理解の促進を目的とし、4つの企画を行った。水戸まちなかフェスティバルでは泉町二丁目商店街振興組合様と連携して、地域の方々に異文化に関心をもってもらうために、スープの販売とフリーマーケットを開催した。また里川カボチャ収穫祭では、一企画として異文化交流

ゲームを主催し、他大学生・高校生や地域の方々と交流した。茨苑祭では他の学生チームであるこみフェスチームと連携し、市民団体の方をお招きして、留学生や地域の方々と日本文化を感じられる体験を通して交流を行った。最後に異文化交流フォーラムは、チームの最重要企画として立案した。参加者(特に高校生)に異文化について理解してもらうこと、高校生・大学生・留学生が相互に交流する場を設けることを目的とし、5つの活動を行った。

以上の企画を通して、「異文化交流」だけでなく、交流を通じた「異文化理解」の促進につなげた。

プロジェクトの成果報告

本プロジェクトでは以下の4つの企画を通して、それぞれ以下のような成果があげられた。

●企画1：水戸まちなかフェスティバル

この企画は、地域と連携しながら異文化理解を促す活動を行うとともに、企画4の活動資金を得るための企画である。泉町二丁目商店街振興組合様との連携と、里美ふるさと振興公社様の支援を得て実施した。具体的な活動として、わかめスープ(韓国)・ビシソワーズ(フランス)・酸辣湯(中国)・さとみスープ(常陸太田市里美地区)の4種類のスープを販売し、146食(23,400円)を完売した。またフリーマーケットでは、外国の雑貨・お土産

品を販売し、7,780円の売り上げを得た。これは、期待を大きく上回る結果となった。スープを販売する際には、スープの発祥やその国に関する豆知識を書いたメモを配り、異文化理解を促進することが出来た。



●企画2：里川カボチャ収穫祭

常陸太田市里美地区で地域おこしを目的として活動している学生チームのさとみ・あいチームと連携して収穫祭を行った。収穫祭の一企画として、私達は異文化交流ゲームとしてジャンケン列車、進化ゲーム、籠と鳥の3ゲームを行った。大学生や地域住民の積極的な協力により、スムーズな進行と大きな盛り上がりを見せ、急遽籠と鳥ゲームを追加した。余ってしまった時間を臨機応変に活用することが出来たのは良かったが、私たちの時間配分が適切ではなかったとも言える。



●企画3：茨苑祭

こみフェスチーム、市民団体（はつらつサークル様、水戸こどもの劇場様）と連携し、折り鶴体験、カプラの積み木を行った。当日は、来場者への声かけ、呼び込みなど、積極的に行動することが出来た。しかし、企画を行った会場で、連携していた他の学生チームはパネル展示を行っていたが、私たちは準備の時間をとることができず、展示を行わなかったことが反省点である。



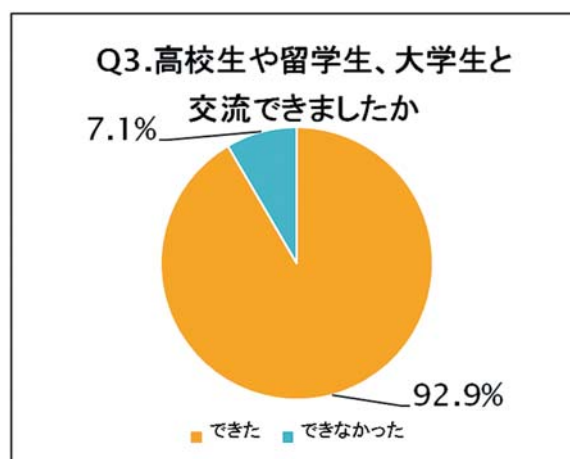
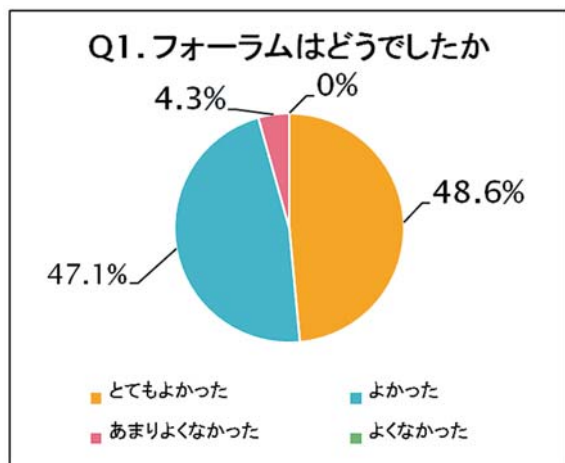
●企画4：異文化交流フォーラム

「異文化を知ろう！」

異文化交流フォーラムは私達の最重要企画として立案した。異文化とは何かを知り、理解してもらうこと、高校生・大学生・留学生が相互に交流する場を設けることを目的として行った。

当日は大学生参加者として茨城キリスト教大学、学生、茨城大学日本人学生・留学生を募集し、39名参加した。高校生参加者として、4校から37名の高校生に参加して頂くことが出来た。当日は、特別講義、アイスブレイク、100人村ワークショップ、ディスカッション、留学体験談の5つの企画を通して、日本人大学生、留学生、高校生が活発に交流した。また、交流だけに留まることなく、異文化理解を深めるために意見交換を行うことができた。

フォーラム開催後には参加者にアンケートをとり、76名の内70名に回答して頂けた。設問は全部で9項目あり、選択式の回答と設問に応じて自由に記述できるようなものにした。アンケート結果の一部を紹介する。



アンケート全体を通して、高評価を頂けた。特にQ1では全体の約96%がよかった、とてもよかったと回答した。参加者にも満足して頂けたことがわかる。また、Q3では約93%の参加者が他の学生と交流できたと回答し、フォーラムの目的が達成されたと感じる。しかし中には、ディスカッションの議題が難しいとの声や、自由に話し合いが出来る時間が欲しかったとの声もあり、次につながる企画となった。

●全体のまとめ

全体の活動を振り返り、当初予定していた留学生の高校生訪問が実現出来なかったことが、大きな反省点として挙げられる。これと関連して、留学生に日本文化を知ってもらう要素が少なかったことも挙げられる。また、留学生の募集方法に工夫が足りず、十分な数の参加者を集めることができなかったことも反省点である。

よかった点として、継続企画であるフォーラムに加えて新たに3つの連携企画を行ったことが挙げられる。最初に行った水戸まちなかフェスティバルでは多くの反省が残ったが、企画を行うごとにその反省を生かし、よりよい活動になるよう準備などに尽力した。また、昨年度の学生チームであるCCPチームは異文化交流が目的で活動していたが、今年は異文化交流に留まらず、異文化理解に重点を置いた活動も行うことができた。